



古石

後援会だより

URL: http://古石.com/

数字で振り返る今年度の岩見沢での大雪

33件

数字で振り返る

岩見沢の大雪

④

雪の重みから原因とみられる倒壊、屋根からの落雪などによる破損など岩見沢市内での建物の被害件数。倒壊に伴って人的な被害は確認されていないが、建物の入り口がふさがれ、中にいた人が一時的に閉じ込められるなどのケースもあった。

市防災対策室によると、3月末までに確認した建物被害は、人が住んでいたり、使ったりしている住宅や店舗など「住家」が計18件、空き家や倉庫、物置などの「非住家」が計15件。気温が上がった3月以降に相次

倒壊や破損 今後増加も

3月5日には、市内中心部の時計店だった空き店舗が入るため、担当者は「破損箇所が見えるようになる雪解け後の4～5月に集中する」という。前回の記録的な大雪となった2011～12年の冬の建物被害は3月末時点で50件未満。4月の申告が急増し、5月末までに204件になった。

建物被害は、所有者などからの申告が把握するのが大半。落雪などで建物に壊れ、保険会社から補償を受ける場合、市が発



屋根が落ち、壁が崩れ落ちそうになった岩見沢市内中心部の空き店舗。店舗前のがれきが散らばり、周囲は騒然となった。3月5日

数字で振り返る

岩見沢の大雪

③

26億円

岩見沢市の2020年度の除排雪費用。当初予算と計3回の追加補正で過去最大規模となった。

総額は26億7200万円。市は当初予算で、除排雪車両の更新費用を除く除排雪費として例年並みの13億6千万円を計上した。しかし、1日当たり200万円かかるという運搬排雪の費用が足りなくなり、1月と2月の臨時市議会にそれぞれ4億5千万円、2億円を追加。さらに予備費など2億9千万円も加えた。

除排雪費用 過去最大に

3月には、主に除雪費として3億1千万円を追加。市が除排雪業者に支払う委託料は、出勤回数にかかわらず、1シーズンの累計降雪量によって決まっている。700を基準とし、10%の増減に当たる630～770の範囲なら契約通りとし、それ以上ならば降雪量に応じて増額、それ以下ならば減額する。市は、今冬の量を950として増額した。

26億円の予算を使うと、何ができるか。例えば、17年9月に供用を開始した岩見沢地区消防事務組合の消防庁舎の建設事業費は26億円。春には解けてしまふ雪とはいえ、財政担当者は「安全、安心な冬の暮らしのためには、欠かせない予算です」。

(中沢弘一)

岩見沢の積雪 11日でゼロに

空知管内は11日、高気圧に覆われて各地の気温が上がった。4月下旬から5月中旬並みの陽気となった。この数日の陽気で10日夜に1日、岩見沢市の積雪はゼロになった。12日後5時時点で積雪は観測されていない。ゼロとなった日は5日間以上積雪が降り、積雪期間が10日未満だった場合、さかのぼって11日が正式に「積日」と確定する。岩見沢市の積雪の終日は、平年値は4月6日。昨年は4月18日だった。

気象庁が管内で積雪を観測している全6地点のうち、岩見沢市を含む5地点ですべてゼロとなっており、残す釧路市は1日午後5時時点で雪となっていた。

(中沢弘一)

数字で振り返る 岩見沢

205



岩見沢市で2月25日に観測された最深積雪。2019年12月の208センチに次ぎ、観測史上2番目の多量となった。この雪は、道庁管内の雪が降り、住宅の屋根が雪に覆われ、道は通行不能となり、道路は閉鎖された。市内の大半を凍結、R北海道は、岩見沢～滝川などの運転を終日見合わせられた。

今冬の空知管内の記事でも多く掲載した「最深積雪」時間とともに変化する積雪量に対し、1日の中の積雪の最大値を指す。

札幌管区気象台によると、最深積雪が20センチを超えたのは、

葬儀 進む小規模化

コロナ禍の感染防止対策が重なり、葬儀に心を砕く人が減っている。道内には自宅や葬儀場で行うのが一般的だが、長年親しんだ家で葬儀を行う「自宅葬」を減らす人もいる。昨年、ある遺族は自宅での葬儀の時間を「父からの最後の贈り物」として心温やかに振り返った。コロナで様相が変わった葬儀の在り方を考える契機にしたい。

(編集委員 升田一憲)

事前準備が不可欠



多くの葬儀が家族、親戚、友人、近所の人、地域の人、宗族の人などによって行われる。葬儀は、故人の最後を看取るだけでなく、家族や友人、近所の人、地域の人、宗族の人などによって行われる。葬儀は、故人の最後を看取るだけでなく、家族や友人、近所の人、地域の人、宗族の人などによって行われる。

自宅葬の長所と短所

自宅葬	葬儀場
<ul style="list-style-type: none"> ● 思い出のある自宅で、最後を過ごすことができる ● 愛着のある品に囲まれ、故人との思い出を振り返ることができる ● 斎場、葬儀場の使用料を抑えることができる ● ひつぎを室内に入れ、納められるだけの広さが必要 ● 仏具の設置から後片付けも含め準備に時間を要する ● 人の出入りもあるため、近所への配慮も欠かせない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅で行う葬儀、家族や親戚らで行う小規模の「家族葬」に位置づけられる

コロナ禍 見直される「自宅葬」

新型コロナウイルスの感染拡大により、葬儀に心を砕く人が減っている。道内には自宅や葬儀場で行うのが一般的だが、長年親しんだ家で葬儀を行う「自宅葬」を減らす人もいる。昨年、ある遺族は自宅での葬儀の時間を「父からの最後の贈り物」として心温やかに振り返った。コロナで様相が変わった葬儀の在り方を考える契機にしたい。

(編集委員 升田一憲)

テレワーク部屋、手洗い場… 苦境マンシヨン コロナ仕様続々

札幌市内分譲マンション成約戸数の推移

営業活動制限下 巻き返しへ

道新幹線で鮮魚輸送

北海道新幹線開通に伴い、鮮魚の輸送がスムーズに進む見込みです。